

2011.10.1

ロシアの隠れた作曲家達による隠れた名曲・佳曲

プログラム

今日はロシア音楽特集です。ただし趣向を変えて大作曲家の有名曲ではなく、やや隠れがちな作曲家達の魅力的な作品を聴いていただきます。ロシア国民楽派の父と呼ばれたグリンカの最も良く知られた歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲と、スペイン旅行の際に収集した素材を基に書かれた「ホタ・アラゴネーサによる華麗な奇想曲」は共に生き生きとしたオーケストラの躍動感が魅力的な作品。リャードフとメトネルのピアノ曲はロマンティックで洒落た味わいの佳曲。グラスノフの代表作の一つであるヴァイオリン協奏曲は様々に変化するヴァイオリンの妙技とオーケストラの絶妙なサポートが光る名曲です。グリエールのホルン協奏曲は、このジャンルの名曲のひとつで、ホルン特性を活かしたおらかな響きと技巧的な聴かせ所も充分で、親しみやすい作品です。タニエフ最後の交響曲である第4番は、ドイツ的な響きとロシア特有の響きとがうまく交錯し、独特の魅力を放っています。今日はこの曲の魅力を知らしめたヤルヴィ&ベルリン・フィルの演奏で堪能してください。

ミハイル・グリンカ (1804~1857): 歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

アーノルド・カツツ指揮ザールブリュッケン放送交響楽団
(1993.11.28 ザールブリュッケン、コングレスハレ大ホールでのLive)

ホタ・アラゴネーサによる華麗な奇想曲 (スペイン序曲第1番)

アレクサンダー・ラサレフ指揮ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団
(1997.8.3 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)

アナトリ・リャードフ (1855~1914): 前奏曲短調op.11の1 (3つの小品より第1曲) 音楽箱op.32

ウラディーミル・トロツプ (ピアノ) (1997.11 群馬県みかほみらい館録音 DENON盤)

アレクサンドル・グラスノフ (1865~1936): ヴァイオリン協奏曲イ短調op.82

シルヴィア・マルコヴィチ (ヴァイオリン)
岩城宏之指揮NHK交響楽団
(1980.9.20 NHKホールでのLive)

*** 休憩 ***

レインゴルト・グリエール (1875~1956): ホルン協奏曲変ロ長調op.91 ~ 抜粋

ラデク・バボラーク (ホルン)
ヤクブ・フルーシャ指揮ブラハ・フィルハーモニア
(2009.4.27 ドヴォルザークホールでのLive)

ニコライ・メトネル (1880~1951): おとぎ話変ロ短調op.20の1 8つの情景画op.1~第6曲

ウラディーミル・トロツプ (ピアノ) (1997.11 群馬県みかほみらい館録音 DENON盤)

セルゲイ・タニエフ (1856~1915): 交響曲第4番ハ短調op.12 ~ 第1楽章、第2楽章、第4楽章

ネーメ・ヤルヴィ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(2010.12.15 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)